



柳田文庫
文庫11
A1834
1



文庫11
A/1834
/

嘉永戊申新鐫

夢遊道人著 全四冊

西洋雜記

江戸書林 文苑閣藏版

越後中蒲
原郡日井
新田氏印

西洋雜記序

歐陽子曰。至哉天下樂。終日在几案。嗚呼。公之在官也。切陳時事。深憂朝政之不平。邊境之不安。而其言之如此。則可知公平日能致至樂於几案。而以養其志矣。況今海內密清。則苟好書者安

可不盡其樂而求諸外也。西洋雜記山村才輔氏者所著。記載彼州建國風俗及物產奇談矣。聞夫才輔氏之為學。不求名聲。當時衆皆從事醫學。而獨專力於地理。嘗著增譯采覽異言。又有此著。迨來雖學地理者頗多。而未有

執事苦志如才輔氏者也矣。然則此書之可知其不苟成而已。古者大禹鑄鼎塗山。而人初辨九州神靈。周公用重譯而漸知德之感遠。秦矣。今也。象豕膏之學。而有人譯書數布於世。於是目不空一丁左行字者。而得西洋萬里視諸掌上。

柳昌平之餘裕。而可不謂讀書境裏
加一樂事。我若夫華夷之利害。與此
此書之所敢闡也。亦非樂志於几案之所
敢論也矣。弘化四年丁未九月望。益堂
鈴木善教識于駿臺僑居。



西洋雜記卷一

目錄

世界開闢の説

洪水并聖人諾厄の説

罷鼻尔の高臺の説

西洋古今四大君の説

罷鼻落你亞并百兒西亞の二大君傳統の説

厄勒西亞國大君の説

羅馬國大君の説

西洋中興革命の説并諸國年號の説

ヘブレウスの少年火中に入れて焼ける説

天より項奪馬國を焼く説并項奪馬に異菓の説

并西洋諸國男色を禁むる説

茅索祿斯王の瑩陵の説

アレキサンデル大王諸將に寶物を賜ふ説

并乞兒に千金を施す説

君を弑する逆賊雷霆を撃つ説

カールゴロト帝邪魔の祠を毀つ説

羅馬國銅甲の説

西洋雜記卷一

予近年志を西洋の學に興し。磐水先生に後事

して其讀書譯文の法を習ふ。既して先生に侍す

るの間。或其語路文義を問は。或彼邦俗事情を

問ひ。彼書を閲するごとく。間ニ奇説を得るとある

ハ。則是を懷中の小紙に録せしむ。此後歲月を

経るに隨て筐笥中に充盈し。未だよりて頃日

是を淨寫し。其讀書文義語路に係る者ハ一編

となし。以て彼邦書を讀む時の考證に備へ。此



其紀事奇談雜技物産等を記し名けて西洋
雜記といふ實學の用は中らぬといふも或以
て聞見を資くるは足らん然るも予が短
才淺學する記さともろ深く謬誤あらんを
を怕敷あへて君子の覽は呈せんといはらば
予が筐藏していつ予が遺志は供するもの
享和改元秋八月朔旦山村昌永識

世界開闢の説

太古の世は造物主すて天地を造成すのち人の始祖
男女二人を造りて「エデン」の地を置く其所
居を號して「エデン」といふ

按「パラデ井ス」ハ樂界といへる義なり奇器圖
説ハ地常良和之處といふ是なりす西書を按
「パラデ井ス」の地ハ今の「アルメニア」國「帝曷爾
伯祈國」歐法臘得河「チギリス」河「ゲウロス」山等
の間なりと「ヘブレウス」の語太古一種の方言より「ハルテ
ス」といふ「ギリキス」國の語より「パラデ井ス」と

いふとなり。

其男を亞當アダムとシ、女を厄穢エハとシ。

一曰いさく、造物主天地を造成してのち、二塊タリの

土を搏成タンして、此二人の形を造り、萬民の始祖とな

す。是より人死すは元ワチの土より復カるの義を明カる。

是る所のなりと。是ハ今の神道者と稱するものなり。附

會するは同くして、此説最怪誕なるべし。

其地すべし氣候融和なり。人疾病なく。又憂苦
なく。天すくちきぐらめは水流の派ハを分ちて、四の
大河となり。美魚多く。

あき今の安日河ガニゲスチギリス河インド印度河チウフラ一曰セ欧法臘

得河の四なりと。あき其ハラテイスの地。今の東

印度の地も及ぶる。地理の書に、印度北南海

則意セイラン蘭島の中は「アダムスバンク」と云地あり。相傳ふ

是古亞當居り。所の地ありと。皆詳あらば。

す。清蔭イシ美景あり。人をくつ憩息ケイシツクせしむるは宜し。

其他五穀百菓美味の物。天地自然に生成して

絶て人力を勞せず。鳥獸と群を同くす。いさく

鳥獸みな人の命メイを聽く。敢て人は害をあたふな

然る。年を暦く。邪魔虚伝シカ伺コひて。慢心マンシン漸生ヤサクす。

一よいそく。其は神の憩息する所の。一箇の大樹の上よりつて一蛇の廻繞をほを見るあへて意となさざらん。此蛇ハ乃スズメ邪魔の變化せるものなり。其虚を伺ひて。驕慢の心を生ぜしむといふ。

厄エ穢ガ言ハ因テ。亞當アダムもまゝ天の教戒をばむまゝ。其罪を造物まゝ得たり。まきよりして地氣カ燥ハ變シて。五穀生ドぐク。鳥獸害をまゝ。生テ死ス飢寒ハ患を免キば男子ハ其耕田の勞苦を罰し。女子ハ其の生育の艱辛ハ罰シ。是ハまハいク。亞當アダム自ミツ耕田の器を造りて。其の衣食をいとまが。始めて火食を知る。

まゝ木を伐りて屋を造り以て寒暑を避く。厄穢生む所乃子多き中。其第一子をカインといひ。第二子をアベルといふ。此二人の世よりつて。始めて城邑を建てる居り。カインハ國王の始とありて。政化を施し。人類次第に蕃息し。此時人壽も長し。數百歳を保つ者少からず。

一よいそく。亞當ハ其の壽九百三拾歳たりと。

まきより以後乃事體を四に分く。金ゴトル。銀ニルハ。銅コトル。鐵テトル。乃四「テイド」と號り。又テイドハ時代。まき金銀銅鐵乃四に配して。時代を分ちある者なり。人間日

用の諸器財乃至樂器の類までも多くハ此時代の
内ニ造成せりとす。

洪水并聖人諾厄の説

洪水ハ今称して「ソンドフルウド」といふ。上は「エイゼルテ
イド」の世の末にありて、即西洋開基第一千六百
五拾七年あり。此時聖人諾厄なる者あり。ラメキス
といふ人の子あり。あきより前ニ天の告よりて預
此事を知りて、一の極めて大なる匣を造る。其制恰船の
如くして衆の人を容るる。上下四面ニ窓固
密にあれと塞ぐ。名けて「アルク」といふ。按是今の
舟なり。

類る。この歳の第二月十七日今の西洋の四月と記せり。按
あき太古「アレウス」の曆法なり
は洪水出づ。此時密雲遍く布れ。猛雨やまがふ。凡
四十晝夜。地面全く没して。水諸山の頂を覆ふ。城邑
人民すべて存する者あり。あきよりて。諾厄の
其妻及び三人の子三人の女并其家人等と共に。
器財食物書冊等を持ちて。悉其大匣に入り。波を
こがして飄流り。第七月の二十七日を以て。亞爾墨泥亞
國の「カウロス」山に至りて止る。此時天晴て。始めて虹霓を
見る。すまをもち相共る。匣をして。山頂に登り。葉を採り
あきを食して。皆命を全る。彼洪水ハ凡一百五十餘日

ソノ者あり。其治むる國をモスクワと云。魯西亞後世其地
は都に故に總國の號を莫斯科未亜と云。記せり。

其匣中所藏の書ハ皆ヘブレウスの文字を以て記せりの文字を以て記せり。後世
傳へ大聖人美瑟ト云者。今を去るに三千
三百年前の事なり。是を脩書して今世傳ふ。

按ヒヒブ子ルス名ガ萬國傳信記事曰。亞爾墨尼亞國ハ
高山あり。アララトといふ百兒西亞國の「エリハン城」を去る

と遠ららば是上古聖人諾尼の「アルク」上は洪水の時
是に止まりて居り。今に至るに當時の

遺跡尚存ハ。アルクよりアル墨尼亞等諸國の人は
是を稱し聖蹟と云。は此山に登りてその遺蹟を拜

禮すと云ふ。又按上より「ダウロス」ハ極て大山
にして「アララト」ハその山の内にて一処の名あり。
又按洪水の事を物理小識に載せて曰。天地開
時。初有水荒。云々。太西言洪水時。亞爾墨尼亞為
甚猛。雨四旬。地面全没。止遺。諾尼等數人考其時。
當帝嚳之八年壬辰。云中國洪水在堯時。是一徵
也。云々。

罷鼻尔の高臺の説

太古の世ハ人類聚居して言語を以て「ヘブレウス」の一種
の。洪水の後よりして。機智漸く生る。人心奇異を好

むすむち「シ子アル」アツシユル等。諸部の酋長等相
議して「シ子アル」の平地において、大なる土木の工を興して、
極めて高大なる樓臺を建て、天際を窮めんとす。諸酋
會聚して、工を監して、漸く數十層を成り、此時は天々の
傲慢の志を憎みて、忽ち諸人の語音を種々異にして、是
は於て諸人言語相通せざり。彼此紛雜して、工を成り
しを得ば、皆各退散して、臺遂に成らば、是は諸邦語
音を異にするの始あり。其臺を建つる地を「ヘブレウス」
の語より罷鼻尔といふ。是を和蘭語に翻譯すれば「バ
ウルリニギ」といふ。即ち「バウル」を義あり。此臺

の遺址ハ、今の百兒西亞國の「オウト・ハックタット」といふ
城の傍にありて、モウフラト歐法臘得河を去るち、一里四分の一
日本半里のちありといふ。

按、以上の諸説ハ、蓋彼邦の古書に載する所な
りて、其説或巫祝に近しくして、厭イ之べきものあり。西
洋の俗臆説をちりたりとある風あるより、
て、姑傳記よりして是を記すのみ。梅、上古の事蹟を記すものハ、
唐土朝鮮琉球天竺諸國、すべて怪談ありぬ。ハ、
西洋にても、此外地中海の「セイチラ」といふ島ハ、太白
星の神、海泡を化して地とす。ハ、又「シリヤ」國ハ、其
初ハ、形貌きまめて長大なる。一種の異人、古きを聞て、
をある。他邦の人を取食ひしを、歳星の神、古きを平け
て、あらう。ハ、人民を造り、あど、ハ、類多きあり。

西洋古今四大君の説

西洋上古より今よりするまでの帝王を稱して曰イ
 ル。モナルクノルとソソ。あは四の大君とソソふ事あり。第一
 ハ罷鼻落你亞ハ。西洋開基千七百十七年より。第二ハ百
 兒西亞ハ。西洋開基三千四百一十年より。第三ハ厄勒奈亞ハ
 西洋開基三千六百二十年より。第四ハ邏馬ハあり。西洋開基
 より。三千九百零二年より。至。第四ハ邏馬あり。西洋開基
 零二年より。今に至りて。九相繼ぐ。此四代の世系沿革治
 事千八百四十餘年ありとソソふ。此四代の世系沿革治
 礼興廢の事ハ西洋史書に載するところ頗詳悉あり。今
 其の大要を採て左に記し。以て考證の一
 助に備ふ。

罷鼻落你亞并百兒西亞の二大君歴代
 傳統の説

西洋開基後最初の帝王ハ罷鼻落你亞國あり。此國一
 名ハヒロニインハ又名アツセ井リアハ。又名カルデアハとソソふ。
 今の百兒西亞ハ。アルメニアハ。帝曷爾伯祈ハ。エイラクアラ
 びイ等の地ハ。其屬國ハ。ゆるえ。地方極めて大なるを。
 初め聖人諾厄ハの第三子シヤムハ。洪水の年と以てその子
 キニスハと生む。一ハ白キニスハ。キニヤムハの孫。是するも。歐羅
 巴中興革命の年を去ると。凡二千三百二十七年前より。
 あり。あは「バヒロニア」あはび黒人諸國の祖なり。キニス

西洋開基第一千六百八十二年を以て鎮星の神の保ホウ護ゴよりて「アツシリア」の地を開拓セキす。其子ニムロドの世に至りて始めて諸部を臣服して「バヒロニア」國の大業を開けり。是即西洋開基第一千七百一十七年なり。或曰。洪水後二百七十六年。二國を開くと。或いはとくニムロド一名ベリユスと号れり。或曰。ニムロドとベリユスも別人なり。其詳あるを復し。ニムロト才徳ありて國人歸服。在位六十二年。もつて位を其太子ニユスに譲り。ニユス死して。其子瑟弥辣未斯位を嗣ぐ。のち印度およびモ一レン黒人の總稱の諸國と戦ひて。皆是に勝ち。西洋全史は是を載す。是を國土を開拓セキし。威徳日は盛なり。是より子孫相嗣で

昔時天よりて人の言語を礼レする。罷鼻尔バベルの地は於て大なる土石の工を興して。大都城を築く。名けて巴必鸞バビロンといふ。漢譯漢譯は把把。其稠廼稠廼はおよそ三百六十八スタヂイニ。いさの西洋の四十ハ里に當る。其精石を以て墙カキとなし。其厚さ三丈二尺餘。高さ十餘丈。其間二百五十餘処の高臺あり。皆高さ二十餘丈。欧法臘得河とチギリスチギリス河の流を引て大湟ハラとなし。その湟甚廣く。あまのこの大船を浮ぶべく。まじ城樓の上。苑圃山水諸景ありて。其廣大美麗なり。世界七奇の第一といふ。瑟弥辣未斯瑟弥辣未斯より其太子ニ子イアス位を嗣ぐ。是より子孫相嗣で

西方の大君より其の後統を傳ふるに二十四世ありて
 一千三百零五年よりして一、五十五年の作は此世數を年數に比すこと世數中をさくま
まは似たりあそりハ上古の事蹟今遺漏あるをさうせむ
ハビロニアの史書ありて西洋全史あたるとりて記するもの
まど世數の事其諸王の内は於て數はサルタナパリュス
入ると入らざるにあつて尚進て考ふべし
 王ヨケロスとリコンの代よりして昏愚よりして淫荒を
 恣りて徳衰へ政礼を國人怨み叛き干戈邦内は起り
 て戦争やまむ國王の別郡「ニマ」城ハ昔より第一世
 のまニニエスの建つる所の美麗ある大城なりが
ニマハ城ハチギリあまの兵火は焼失し邦内分裂を
ス河の邊はチギリあまの兵火は焼失し邦内分裂を
 て遂に罷鼻落你亜と默丁との二國となりて王業

衰微せし是則西洋開基第三千零七十七年の事なり
ス井ビ
唐土周の厲王の八年庚寅にあつて
 其後此國王再祖業を恢復して土宇
 を開んとを欲し大に兵を興して如徳亞國に攻入
 りて其國都「エリユサレム」城に至りて陳營を設け日
 を期して城を攻めんとり夜に至りて忽一乃「エニケ
ル天人身は羽翼あるものなり劍を以て天より舞下り其諸營を
 撃つ罷鼻落你亜の軍士大に驚れ甲を捨て十
 八萬六千餘人一時は山谷は星散して死する者甚多し
 是に因て國勢すすく衰へ後三百餘年よりして遂に百
 兒西亞國王セイリュスは滅する是即西洋開基第三

千四百一十二年（本朝安寧天皇十三年）周の百兒西亞

ハニヤと黙丁（一名レイシア漢譯利細亞）作る。其女マニタナを

以て百兒西亞國王カムベイセス（妻）に因て太子を生

む。名けてセイリュスとす。あき則百兒西亞國興業の
始祖あり。セイリュス天資英俊（ヨウ）にして能兵を用ゆレ
イチア國の内礼を靖め（アジア）細亞の諸國を降し。黙
丁の王業を篡奪（ガク）して國勢日は盛なり。罷鼻落你亞
と相争ふと數年（ウツ）して志ばくあきを勝ち地を
畧して「ゲインデス」河に至り。是を渡らんとする。水

潤く（ヒロ）して其淺深を知らず。且舟棹あり。セイリュス則
一疋の白馬を追放ちて水中に入ら（オコ）ちて。是を試む
る。白馬水を游ぐ（オコ）と甚速（ハナタスキ）して直（タビ）に渡りて向の岸
に登る。是に因て其水の淺き（オコ）を知りて。諸軍悉渡
り。遂に進で罷鼻落你亞の國都。罷鼻尔城を攻めて。
相戦ふて日を経り。此時城中の一臣百兒西亞に内
應する者あり。門を開きて兵を迎ふ。是よりして百兒
西亞の兵を城中小入して。遂に罷鼻落你亞國主
ナホン子チを擒（オコ）して是を殺し。其王業を代りて。西
洋乃大君（オコ）なり。罷鼻落你亞國開基より以來。九一千六

百九十餘年よりて國祚絶滅し此セイリュスハ尚諸國
 を併せんことを欲して兵を興して「メツパタミア」今の
 爾伯祈「セイリア」如「エデア德亞等諸國」と戦争すは、そ
 軍中より、一ヨリ在位九十八年なり。セイリュス王
 破滅し、セイリア國の舊臣是を怨む者ありて、密に兵を聚めて、
 セイリュスに、所の營を襲ひ撃つ。百兒西亞の兵破きて、セイ
 リユス殞れ、百兒西亞の人、セイリュスの尸を將ひて國に歸らんと
 する。路遠くして不可なり、則其頭を斷て桶に入し、人血を以
 て是を浸して、國に持ち歸るといふ。其太子カムベイセス
 人血に浸すの理甚詳なり。若くは、其位を嗣ぐ無道なり。厄入
 多國王アマシスと仇を結び、大に兵を起して是を伐ち、
 連城を勝て、厄入多の國都孟斐斯城を陥し、大に殺

掠を恣る。此時アマシスをぞ、死に則其瑩陵を發掘
 して、アマシスの「ケバルセムテ」の屍を、上古厄入多國の典
 禮と臍腑を抜き去て、種々の貴藥を以て是をよつめて、尊貴の人死すれば
 是を稱して「ケバルセムテ」の尸といふ。是千年を経ても朽損せず
 六物新志に、是を鞭ち、是を寸
 二は切りきざしてのち、是を焚て灰となる。アマシスの太
 子ハイツ、位を嗣ぐの礼を行はず、逃きて他國へ行ん
 とせしを、百兒西亞の兵追ふて擒りて、是を殺し、遂に
 厄入多國を滅せり。初め厄入多國ハ、ハ罷鼻落你亞國の
 始祖ベリュスの次子、アエゲイブトスなるもの、ア亞刺比亞
 國に於て、「メラシホデン」國の人と戦ひ勝て、西南の地を

開拓して大業を成し五十餘人の王子ありて政を輔け
 國を治め子孫相續きて法制礼樂文學等皆全備し
 て國勢甚隆盛なりしが是に至て悉絶滅して遺るる
 少くは是よりカムベイス兵を進めて利未亞
 國の荒沙母はの荒沙の地ハの地より一は大風沙を
 揚げて行く處より兵士水は渴して死するもの甚多
 し是は因る兵を收めり本國は還る者少くは其の
 ち驕慢無道殊は甚し百兒西亞國中は放る土地を有
 つ大商十四人を欺り捕へり生たさず倒る土中は埋
 殺し或ハ猛獸を縱て人を食むる或ハ人を樹に縛り

自是を射殺して以て樂とするは其他暴虐の刑甚多く罪
 する者を殺すこと計あるは勝る處より後「セイリア」
 國はありて殺さる誰人の所為なることを知らば其死
 せる形状甚奇異なり蓋天報ありといふ在位凡
 七年よりカムベイス在位の間子あり猜忌殘虐し
 て勲舊近戚大抵殺し盡して嗣とすべき者あり曾そ
 の弟スメルテスを殺さんとすスメルテス逃る其行く
 ところを知らずカムベイス死して後忽スメルテスと
 稱する者ありて出づ衆是を見るは其形貌少く
 異なる所ありし按は此事宋の柔福公主
の夏と相似するといふするを

立て主と成り此人淫暴よりして位は即て後日先の二王の
 妃妾を以て、また已う妃妾と成り、その後セイリュスの一
 妾を志づるよしあきを見るよし決してスメルテスにあらざ
 ると知る。因て其来由を試み問ふ。果して一の妾男子
 ありて、スメルテスにあらば、則ち志を密に國臣に告げ
 よつて兵を以て襲て是を殺し、然しして真のスメルテ
 スも終に其行く処を知らず、國人すなわちダリウス
 を立て王とす。ダリウスをセイリュスの女壻なり、是を
 稱して百兒西亞國第三世の大君といふ。ダリウス賢
 才ありて、よく仁を施す。國人悦び服して、威徳最盛なり。

遠近諸國皆あきと畏る。曾兵八十餘萬を興して、歐羅
 巴洲の東に至り、ダリウス老て、其太子セルセス位
 を嗣ぐ。セルセスもダリウスの次子あり、といふ。其
 母ハセイリュスの女よりして、ダリウスの元妃たるがゆゑ
 立といふ。是より子孫相継ぎて、西洋の大君なり。國富
 く兵強く、世に威を諸國に振へり。允統を傳ふるに
 十世二百十餘年ありて、厄勒察亞國の帝王アレキサン
 テルに破らる。國亡びぬ。是則ち西洋開基第三千六百一
 十年の事なり。日本孝安天皇の六十五年、唐土周
 の烈王の四十一年癸巳に當るといふ。

梓ベルシニア百見西亞國和蘭の人ハ呼フテベルシニアイトス
 大國なり。今ア亞細亞洲中ニ於テ最モ有名ノの
 別ニ中興セルものあり。

厄ギリキス勒キス察キス亞キス國大君の說

馬マ則セド多ド泥ニア亞ア國ハ其地ギリキス國の内東北ニあり
 地アリ多ク其東ハ多ク嶋アル海ニ臨ミトシてハ有名ノ有リ
 富キ饒カウの國ナリ其始祖ヲカラニニストソノ罷バ鼻ビ落ロ你ニ
 亞ア國ノ尚シ盛セなり。時ハいつクもモ此ノ土ヲ開キテハ是レハ
 王トシテ位ヲ其子タウニスト傳フタウニスト在リ位

十二年ハ卒シ其子テユリマスト立ツテユリマス
 在リ位三十八年卒シ其子ベルヂキユス立ツ
 在リ位五十年卒シ其子アルセラウスト傳フ
 是レより子孫相續シテ此國ハ王トシテ其後西洋開基第
 三千五百九十四年日本孝安天皇三十九年周のアレキ
 サンテル大王其父をヒリピユストソノ祖をアメ井ン
 タストソノ並び馬則セド多ド泥ニア亞ア國ノ王ナリ母をオレ
 イムビアストソノエビロス其地マセドニアの西あり
 の内モロツセルス國王子オフトシミイノ女ナリ是
 歲八月第六日火曜日を以テ馬則セド多ド

泥^ニ亜^アの王京「ベルラ」の地。此地今名「ジュキリア」といふ。ロニツキとソへる海湾に近き城あり。
 おひて生る。たゞ即ヒリピユス王即位の第五年より
 て西洋中興革命其事下の時を去ること三百五十四年
 前、邏馬國開基後第三百九十七年、百兒西亞國王オ
 キヌスの世よりつゞきり。此時厄弗俗國厄弗俗國ハ小亜細亞の内ニ属スル。アナトリアへハ神女廟。厄弗俗國ハ天下七奇の其一なり。掃
 郎察國のミツリンとへる人著す。その意太里亜紀行の中、
 厄弗俗國を奈リ「チアナ」の像あり。其像女身にして、甲冑の如
 き衣を着て、上は種々の圖畫あり。西手は日月を握る。自火を出して炎上は是より
 先、神女其祠師を告て、我祠自焚くるの日よ
 りつりて、一の英傑の主世は降誕して、東方諸國を破

滅すべしと果して、それ言ふと、その如くアレキサン
 テル生きて神靈より大徳あり。後の史書は是を
 尊んで「マグニム」云々「ゴロート」といふ。マグニム云々
 へる義あり。今よりつりて西洋より英賢の王へハ、これを大とい
 号を加へ、是を尊む。そのアレキサンテルは始るといふ。又梅は
 アレキサンテルも、其母舅エビロス國王の名にて、その以
 て、是は名く、是彼邦も、そのの習俗より、采覧異言和蘭
 國の條、生子則以前世大人偉者、名字命之、あるまじく、是類なり。年十八より父の王よ
 り、アテエ子國を征伐す。アテエ子國の南に有るマゼ
 アレキサンテル自一陳に進みて相戦ふ。敵軍披け、靡
 きて、敢て是を敵する者あり。マゼトニアの兵は、是を
 乗して争ひ、遂に大にアテエ子の兵を破

りて斬獲六千餘級アテエ子ン國遂ニ降服すアレキ
 サンテル性潤達ウツダツして將士を愛シ施セシを好む凡物を
 得るおとよ皆おとよを衆ニ厚く賜して敢身アスミよ止めむ
 これ時百兒西亞國ハ世ニ西洋諸國の大君オホノミコとして地
 廣く兵盛ヒノタカシとして府庫ウラコの富トモつよトモなるを以て百兒
 西亞の人曾馬カマテマセト則多你亞ニニ來る者ありアレキサンテ
 ルガ厚く施して身ミよ富トモまるざるを見て是を譏りて
 いそくおよそ國ハ府庫富むトモあらずんバ國用足る
 べうらび君の府庫はウラコして何ナニもの所トコロもあるやアレ
 キサンテル答コタヘていそく我府庫ハ親友將士の心ココロよ何

りト百兒西亞國の人その答を異なりト次年二十
 七ヒリヒユス王病ヤマトく短ミくすなをもち位イハを嗣ツグぐツグげ
 たるタラシアアフウニオンフウニオンハハル馬泥亞バニヤ等の諸
 國クニと戦タケひて皆おとよ勝カチちタラシア國王オホノミコレイスマニ
 ススを斬キりタラシアハ今のキリイキスキリイキステベンテベン國クニを併アワせテ歐
 羅巴洲東南諸國皆降タラシるタラシとして兵威日ヒ盛カ
 して漸マく亞細亞洲アジヤの地チを蠶食サニシヨクす百兒西亞國
 王タリウスコトマンニスマンニス是コトを惡ニムむ則百兒西亞國中
 マンノンマンノンロロダイセルダイセル等の地兵歩卒十餘萬騎士一萬
 餘人を發ツクしてツクちツクを擊ウつウびアレキサンテル兵を

以て是を迎へ戦ふ百見西亞の兵多きと數倍よりて馬則多泥亜の兵中怖る色あり。是で圍を受んと欲アレキサンテルは自ら兵器を執り矢石を冒して敵陣に入る。左右是を諫めていそぐ事す。危し君を早く退きて身を免る。アレキサンテルいそぐ。汝等ハハ我親友あり。すでは事あるに至る。生死を同くすべし。我何を親友を捨て。いそぐ身を全うせんや。是に於て士卒皆奮激して百見西亞の堅陣を衝く。遂に大に是を破る。首を斬ると一萬餘級俘虜の數もはるかに多し。稱ふ此時馬則多泥亜乃

大将九人士卒二十餘人戦死す。アレキサンテルは其屍を求めて是を葬り。碑を建て其功を録し。其遺す所の老幼を撫育し。是よりして衆心感激して。是に死力を盡し。レイシールハムベイリアの二侯國およびフレ井チア國も降る。此時西方羅馬リテニ等諸國仇を結び兵連あること數年あるをアレキサンテルは是を和諭し。諸國みな是に降る。西洋開基第三千六百一十七年。日本孝安天皇六十二年。周百見西亜國王タリウス。コトマンニウス大に兵を起し。歩卒四十餘萬。騎士十餘萬人を以て。自將として。まきり

一キス」を撃つ。此時アレキサンデルすゞで「シリシオン國地志を辨しシリシオン國ハ攻め平げて境内の衆をうくすセリ」國の「ダウロス」山は放る是を拒ぐ百兒西亞國王衆を待て備を設け平原に屯して士卒を急慢せり。アレキサンデルすゞもち兵を以て其不意に出で掩襲し大に是を破る。百兒西亞の兵皆潰散し死する者十二萬人。百兒西亞國王僅に單騎して走り去る。是よりして百兒西亞國王恒に駕するを其の寶車もよび佩ぶる所の寶弓を得ず。其王の母と愛妃子女を得たり。アレキサンデルあへく是を輕慢

せば礼を以て厚く是を養ふ。遂に勝り乘じてそれ別都を攻取て得る所の儲蓄珍寶をもめて夥く是よりして小亞細亞の嘉累亞葛八多西亞那多里亞亞馬西亞厄弗俗等の諸國を攻併せ地中海の諸島を降し。西リ牙の諸國を破り。テイリュス國を滅し。弗尼奈亞國を降し。如德亞國主も其國都「エリユサレム」城の僧官の主等皆歸服朝謁して寶を献げ。あへくおして地方廣大よりして。欧法臘得河を以て百兒西亞國と界を分ち。其近傍「バヒロン」等の諸州皆降る。百兒西亞國王志をく敗せしむ。封疆日ニよ感るを見て其急よこへ

ハ國中レ令レて大小軍器を造り諸將と議レて大兵を興レしテ韃靼シケイナア是レ的ニ亞等諸國の兵を招マき集アめ歩卒八十餘萬騎士三十餘萬戈甲備足レて軍容ヨウきトめて盛チまりアレキサンテルモ亦諸國の大軍を帥ヒてニ歐法臘得河ニ至ル戰ヲを交マしテ百兒西亞ペルレシアの人前度の屢敗ニて辱ハを取ルを憤イり誓ヒてギリキスヲを滅セんトて其鋒甚銳ホトナキアレキサンテル則奇計ヲを廻マして精兵を合シて其後ニ廻リ出ス前後相應シて其中軍を衝ツき悉ク是ヲを破リ首ヲを斬キ事九萬餘級其他死する者計カふるニはシゆル甲ヲを捨テ兵ヲを解ス

四方ク小潰ク礼ス馬マ則多泥亞ニの騎將ケウパルメニオチなる者者驍勇絶倫ケウなり北ニを追ヒて百兒西亞ペルレシア國王ダリウスヲコドマンニウスヲを鎗ヲを以テ刺殺スはシてハわリてアレキサンテル大ニ勝利を得テダリウスコドマンニウスの屍ヲをバ王者の礼ヲを以テ厚ク是ヲを葬リ其騎將を重ク賞スこれより兵を進めて東方諸州を攻破りてその明年ニ百兒西亞ペルレシアの國都ペルセポリス城ヲを拔キてハ此國を滅シて西洋大君の業ヲ代りついで東方ハサリアノ國を滅シ其地ニわリて大ニ射獵ヲをなシ獅子虎豹諸獸を獲ル其數ハおシて萬ヲをシつテかシふマ

南の方亞弗利加^{アフリカ}にむろい。既入多國を平げ。其地
 大城を築く。あま今の「アレキサンデリア」城^{アレキサンデリア}
 あり。次で利未亞國^{リミア}を降して。黒人國の界^{イシド}をくぐるまで
 の地を開く。後すく大軍を以て。天竺印度國を攻敗
 りて。印度の總王を擒^{トコ}す。その他の印度諸國を破
 滅し。東の方安日河^{カンゲス}に至り。兵を收めて本國に還す。
 威德四海に及びて。西ハ歐羅巴^{ヨーロッパ}の諸王國南ハ亞弗利加^{アフリカ}
 洲の黒人諸國北ハ韃靼^{タタール}是的亞諸國に至るまで。天下
 朝貢して。方物を献げ。則帝都を「ギリキス」國に建
 ち。其子弟功臣を諸國に分ち封じて王とする。あま西

洋開基以來前後無雙の英雄の帝よりて。地の廣きと
 まく古今比する。是より統を傳ふる。あまや二
 百八十餘年よりて。羅馬の國威德隆盛よりて。ギリキ
 スより代りて。雄を西洋に稱はる。

羅馬國大君の説

羅馬國拂郎察^{フランス}の人ハ「ロム」^{ローマ}といふ。和蘭^{ホルランド}の人ハ「ローメ
 ン」といふ。其地意太里亞國^{イタリア}の中央よりて。地白里^{チベリ}とい
 へる大河のそみ古よりて天下有名の上國なり。其
 開基の始祖をロムリウスといふ。幼稚の時。其父母難不
 遇^{ナシ}ハ。ロムリウスと。その弟レムスとの二人を。地白里河に

すくく然きども天の加護あるも二人の小兒皆淳之流也
 敢^{アテ}沉^シま^ルび時一個の羊を牧^カふハカステリスといふ人
 あり是を見て甚奇異ありて其凡人はあらざることを智
 救ひ上げて家へ歸り是を乳育ひのち成長するも及
 んで英才人日越えゆく衆を懷^ク集^メ一遂は此國を開て
 王とたゞし法令制度よく備り其ロムリユスの名は
 よりて國を邏馬と號ひたゞラテン國第十二世の王
 の時當りて即西洋開基第三千一百九十七年あり
 唐土周の平王のニ^ニナ^ナを邏馬國開基の元年と称然
 十年庚寅は^ハを邏馬國開基の元年と称然
 きども唯一方の國王たるのみ其後此國王ジリウスカ

アエサルミソあもの英武絶倫よして戦ふてはうたすらび
 勝ちむふとありあへ敵する者なりハ^ハル^ル馬^マ泥^ニ亞^ア
 イ^イラ^ラド^ドカ^カリ^リア^ア今^今の^の排^排「[」]伊^イ斯^ス把^バ你^ニ亞^ア諸^諸國^國臣^臣服
 して威徳日は盛其後遂はギリキスを併せて歐
 羅巴總洲一統の帝となり是西洋開基第三千
 九百零二年の事なり日本崇神天皇五十二年漢の
 元帝初元三年乙亥より此後
 統を傳つると三百五拾餘年よして其國大はれきて諸
 帝争ひ立て戦争やまび此時其帝コンスタンティム^マグ
 ニム^ムある者^者て^てその^の説^説上^上より^{より}由^由英雄賢才の主よして悉
 諸僭偽の主を追討し邏馬の帝業を中興し諸州の大

礼を平定して、^ア亜細亞^アフリカの諸國を是に臣服
 せし。是に於いて新に大城を「タラシア」國に築き「タラシア」
 を改めて「ローマニア」又新に羅馬と号し。其城を「コンス
 タンチノツポール」と名く。つとを東都と号し。古の邏
 馬を西都と号し。此帝をなすとて文學を好み。東都に
 書堂を建て、書を積むと二十萬冊に及べり。此帝の
 母后も甚く賢徳あり。帝と共に古聖を慕ひ、賢者を敬
 みて、賢女の名世に著し。そののち五百年ありて、カール
 ルゴロト帝の世に至りて、^ゴコロト^トも大なり。西都を「入ル馬
 泥亞國」の「ウエ子」の地に移して、まづ大都城を築き、

古の羅馬の都と、教化王所居の都とする。帝すゞの「ウエ子」
 は遷りて、^ナ尚^ホ今に至りて、稱して羅馬の帝とし、^ゼ入^ル馬^ニ亞^ニ
 國の別名を「ヘイリケンロームセ」レイキと號し、^ロ羅馬^ニ聖國と稱す。
 義なり。其地を分て十道となり。百官法令全備して、教化大に施
 して。歐羅巴洲に學校を建て、人士を教導するを、實に此時より
 して盛なり。又七屬國を置く。號して羅馬帝の輔政七官と
 する。其七國ハ「メンツ」ハ「入ル馬泥亞國」の庶政を主り。チリールハ「ア
 ラト」國の教を主り。ケウレンハ「意大利亞國」の教を主り。ホヘメン
 多貢獻礼法の事を主り。ベイエレンハ賦稅供食の事を主り。サキ
 センハ征伐の事を主り。ブランデブルクハ財貨寶庫の事を主り。

近世よりして「バルツ」「フランスウエんキ」の二國を加へて九官となすといふ。然して今を去るると三百餘年前は東都「コンスタンチンツ」ホル城ハ都兒格國ハ奪とて入ル馬泥亞の帝都ハ今に至りて隆盛富饒ありて其廣大美麗なるも紙筆ハ竭はべらば此邏馬「ウエ子」西都の事状大畧ハ予訂正増譯采覽異言の中一記ハ故ハ是ハ贅せし凡昔時ロムリス邏馬の鴻業を開きより今茲辛酉に至るまで合せて二千五百五十三年のちやと云梅ハ「メンツ」「チリール」「ケウレル」の三ハ教官の長ありて他ハ皆教官の長なり。今に至る入ル馬泥亞國中の諸侯君長大ハ帝畿の地ハ會するの時ありて此時政令を議し

法教を布た人物を考撰し官を授くと云ヨニアオツデニス所刊の萬國細分地圖の内ハ又詳ハ此事を記し其圖あり。輔國九官ハ上ハ坐。各國の諸侯ハ左ハ坐。法教を主る諸官ハ右ハ坐。帝畿の別都を治むの守令ハ下ハ坐す。其順次悉定りあるなり。

西洋中興革命の說

西洋開基より今茲辛酉の歳に至るまで凡五千七百四十八年なり。然も開基より第三千九百四十七年ハ當りて一聖主世ハ降誕ハ此王神聖徳ありて諸國ハ教を施し文運大ハ開け制度全く備るを以て遂ハ其聖主誕生の次年を以て中興革命の元年

と稱す。日本垂仁天皇四十一年。唐土漢の平帝元始元年辛酉（西暦一〇九年）。西洋諸國皆其正朔を奉りて。別年號を建ふることなく。今茲辛酉に至りて。中興革命の第一千八百零一年あり。

按。唐土迹傍の唐土文字を用ふるの國の外ハナシ。其已國ニの開基。或革命の年を以て元年とす。別年號を建ふことハナシ。明史の外國傳ハ瓜哇國宣徳七年入貢表書一千三百七十六年。蓋漢宣帝元康元年（西暦八十七年）乃その建國の始なり。又池北偶談ハ俄羅斯國以順治十七年遣使入貢。不知正朔。自称一千一百六十六年。康熙十二年土魯蕃表文の後。一千八十三年と稱す。或記す。今考

「ブレウス」の少年火中より入る焚け

さういふ説

上古の世は罷鼻落你亞國主「ナボカド子サル」ハ其父祖の業を嗣ぎ。世ニ西洋大君より。國富み地廣く兵強く威盛り。遠近諸國は是を畏る。かくはわけて驕慢の心日増長して。天地世界の内我はおよぶめをいとす。すなをもち鑄エ命。黄金を以て己が像を造らしめ。其高さ十二丈幅三丈餘。その國都巴必鸞城邊の「テユラ」といふ平坦の地に於て大群臣國人を會し天を祭る時の音楽を奏し。令を下して曰。今天地此

真主ありといひます。汝等敬んが是を拜すべしと己ハ
 金像と共に高臺の上座して其拜を受く又いさく
 一拜せざる者ハあま天日背くなり。さういふあま
 火中ニ投び置る。すなまじく側ニ大坑を設けて火
 や其中ニ熾ます。國人多し其嚴威を懼きて拜せら
 る者あり。唯「ヘブレウス」の三人の少年アサリア名
 アブテナアハニア名サツクサアル。盛徳弘茂の人
 ありて世擧て是を尊重せし者あり。あま拜
 礼を行はば王あまを召て其故を問ふ三人答ていさく
 大王洪福ありて天命を受く。大國を治めさす。ハ皆

あま天の恩徳はあらずや。然るも今々の恩を忘きて
 自天地の主と称し。あまあまあま臣等が君は叛きて自王
 と称する。是ト。是大王自求めて罪を天に得たまふ。と
 の。臣等實は大王を以て乱命なりと思へり。い
 んぞ其乱命は従ひ。さすつらんや。王大に怒りて曰。我今
 汝等と彼の火坑の中ニ投入せん。誰人汝を救さん
 や。三人がんも。臣等とより人の救を望む。あま焼
 け死なば死なんの。決して王の乱命は。あまあま
 王の。いさく。左右に命じて。あまあま。三人
 を熾火の中ニ投入しむ。三人は。火中ニ徐歩して。衣

服身躰少も焼け焦きず容貌自若として恰平生も
 異らば群臣國人是を見る者驚異をばるるも是も
 於て王大に驚き悔て自臺を下りて三人を請ひ招き
 て礼待して罪を懺悔しとちをちと彼の所鑄の黄
 金の像を毀しめ是より三人は師と事へその
 言を用ゐ國大に治まりとなり。

天より瑣奪馬國を焼く説并瑣奪
 馬の異菓の説附西洋諸國男色を
 禁ずる説

西洋開基第一千九百四十九年。唐土復后氏アツセイ

リア國の人落徳とて居る者。格落徳ハ如徳亞國の聖人。ア
 其の母および弟妻子家人と共に家を將ひて瑣奪馬
 國より居りて居住し瑣奪馬ハ如徳亞國の一部にして
 土地肥饒物産蕃盛にして居人すべく富に榮えり西方
 有名の都會なり。然して此時瑣奪馬國風俗壞れ
 て人倫の道を失ひ男色を恣りて其近郡アダマゴモ
 ラアダマハ太古アダムの遺址なり。ゴモラハ一名アモラ又ゴノモラと
 即西洋開基第一千八百七十年の時築く所なり。その西地と共に罪を天に獲りて天
 下を是より重罰をあへんとす。其國中萬民の内は唯
 落徳一家のみ仁慈善良ありて徳義著聞するよし

りて天すたるもち「エンゲル」羽翼ある天人なり一名ヘメルホツを遣ツカたりて落徳ロツテスを告げて他國を往ウチりてむ落徳ロツテスを憐アハレむべし。「エンゲル」のつてく悪を罰せずんば何をやつて善を賞せん汝速スミカよ去るイリ。落徳ロツテスすなりち親眷家人と共トモ家ウチを收拾シウジウして他國を往ウチりてすぐる。瑣奪馬ソトマの界ケを離ワカしてちきを回り望めぬ熾炎シエン天アメを接ツキひちち落徳ロツテスが界ケを出イるを待マて。天アメより天火テンカを降ツクり地チより硫黄焰リウウエン硝シヤウを噴フて出イて。きよも美麗メイレイなる。瑣奪馬ソトマアタマコモの城邑人物草木鳥獸悉焼滅シヤウメツして。曠漠の惡地とな

りて今イマに至いたりて其跡存アトりて。地チの惡アクきと昔コトもかたからけ。傍ナリ大湖ダイコあり名ナけり「ドーデゼー」ドイデゼー。羅匈語ロウコンゴに「トリスアスハル」トリスアスハルと云イふ。ちき死海シカイと云イふ。其湖中ミヅウミなえ魚イサ貝等カイトウの生類ナマモノあり故ユヅリなる。湖中恒ツネ大脂塊ダイシクキを湧出ワケす。人ヒトちきを採ツクりて薬用ヤクヨウに供ツクひ名ナけり「ヨーテ」。レイムと云イふ。此湖頗廣コトバシ。ちき昔時コトバシ焼ヤクまゐる時トキは。その土地多オホクく焼ヤクけ崩クズれ。大半オホクハ湖中ミヅウミに陥没カンボツして。故ユヅリなり。ヒブ子コルスカ所撰ショゼンの萬國傳信紀事マンコクデンシンキジの下編ゲヘンに云イふ。死海シカイの邊ヘリに一種イツシュの木キを生ナじ。其形状シキョウ我歐羅巴洲エウロパに在アルる。ちきつろの「オキセイア」。カンタカント。刺棘シキキ多オホクき木キなり。和蘭ワランに

よ似たり。此木の葉を結ぶを「ラテン」語とて「ホモ
 ムソドミチキム」といふ。和蘭語とて「ソドムス。アツペル
 といふ。此菓色鮮妍愛すべく。白くして圓く。橘柚の小な
 るものごとく。其肉も白き種子満ちて。橘柚の類の
 いまぐらうて熟さざるものは同じく液汁をくく。溢
 く食ふ處うへ此菓日を経るよちるがひて。幹の上も
 いて乾けむ色變じて黒く。是を破るも悉くな飛び散
 りて。恰灰塵の如くといふ。此菓のこまハヨハシ。ヤルユツプ
 アムマンといふ人所撰の如徳亞國の紀行書および
 タキトスといふ人所著の書まゝヨオセフスと云

人あらざる如く。如徳亞國紀事の書等には載るとい
 う皆同じ。相傳ふ蹟奪馬の地すべし荒廢は。天の
 奇異なる菓木を生じて。其遺址を識し。以て後人を
 誡むるをいふ。

按。西洋諸國今に至る男色を禁むるを
 極めて嚴密なり。是その人倫の理を背くを以
 つの故なり。蓋女色淫乱なり。其分別なきハ
 殆ど天の行に似たり。男色は犬豕とて敢たさる
 ることあり。天理人倫を背くの最とす。故
 には男色を稱して「オン。トクケフ。テーレケシテ。

ナテウルと云ふ是ハ非法非礼にして人の生理を
そむくところ義なり。さくを以てし。さくを
犯す者何れバ直ニ火を以て是を燒殺し。諸國
皆然也。號して「ソドミイ」といふ。蓋瑣奪馬乃
近音なり。意太里亞國はあつてハ乃猛獸
を以てさくを咬殺さしむといふ。

茅索祿斯王瑩陵の說

昔西洋開基第三千五百九十七年。日本孝安天皇の四年
十八年庚午小亞細亞の嘉魯亞國王茅索祿斯卒。在
位九十四年あり。其后亞爾德弥細亞悲よと云ふ。一

國の力を竭して茅索祿斯王の瑩陵を築く。その規
制すべく樓臺の如く層ニ上昇して極めて崇高なり。
内より外に至るまで悉美ある玉石を以て造建し。そ
の制作の巧妙美麗なること紙筆よほくすべし。是
ましく天下七奇の其一なり。造建すべし終らんとし
て。后それ夫王を憶念思慕してやらず。遂は病と成り
て殂。制を称すると九二年なり。あつてあつてその
弟イテリキニス位を嗣ぐといふ。

アレキサンデル大王諸將に寶物を賜
ふ說并乞見よ金を施を說

昔アレキサンデル大王ペルシア百兒西亞國を攻破りて其國都
 ヘルセポリス城に入る此所ハある百兒西亞國ルシ累代の都
 城ありて金銀珠玉ハいふもあまらざる其の他奇異珍怪名
 を知らざるの寶物きまめて夥くして計うるも勝べ
 らず大王是を得て悉從ふところの諸將士小分ち賜
 ふ一臣あり奏して曰寶物真よ惜むべし過て賜ふ
 と然る處うづべ大王のソとく我ハ諸將士を以て無上
 の寶とす金銀珠玉何ぞあまざる比とるものもらんやと
 蓋古今大業を興すの英主ハその識量萬國相異らざ
 るあり

ピイテケレルクといふ人著すとてら此窮理奇觀
 の書よ曰アレキサンデル大王唯武徳絶世なるもの
 ありならず文學を尚むとす人よ過をたりある
 時一大賢者ありアリストテレスといふ此人天文
 地理コロンキ悉究めずといふ形一 大王是よ師と事
 ふ恒よ曰我天下の主とすといふが榮とするも足
 らず唯一人のアリストテレスを得て師とするを
 を榮とすと云ニ其賢を敬ひ士を礼する是類
 あり是事ハ又艾儒畧が西學凡より出でたり
 今アレキサンデルすて東西諸國の大君となりて

のち、くつて國中を巡行し、時、一人の乞食者あり、駕の前、向して數錢を乞ふ、大王左右、命じて、是、千金を賜ふ、乞者大に驚た、懼とて、申し、ハ某ハ乞食者なり、ハ數錢を賜り、ハ足まり、何ぞ此多金、ハ何ぞぞ、ハげんや、大王の曰、汝ハ乞丐なり、唯數錢を乞ふとぞ、知の、我ハ帝王なり、千金、ハあらざる、ハ施す、ハ足らば、悉其金を彼乞者、ハ賜り、ハ歸ら、ハめ、ハといふ

君を弑するの賊雷霆は撃つるの説

昔「ギリキス」國主セノー在位十七年の間、驕暴不仁、殊、甚く、其后アリアト子ハ邏馬のレオタラキス帝の

女たり、其執政の臣アナスタレウスといふ者と私情を通じ、

遂に相圖り、西洋中興第四百九十七年日本仁賢天皇十年唐上南齊

丁丑、ハセノーの醉臥を、ハ乗じて、是を匣

中、ハ掩殺して、群臣國人其威を懼れ、ハあへて言

を發する者、ハ爰、ハおひてアナスタレウスを立て國

王となす、然るも「ギリキス」の諸屬國馬、ハ則多泥亞

歩而葛利亞、ハ翁加里亞等の國、皆其礼逆を惡とて、ハあへて

後、ハ各兵を起して、是を撃ち、數年の間、戦争やまら

アナスタレウス性驕傲、ハ天地鬼神を敬ふとぞ、知

らば、「ギリキス」の天文師プロリキウスといふ者、アナス

タシウスが天罰よ遇さんとも前知れ果して中興第五
 百十九年 日本継體天皇の十二年唐土梁の武帝天監十七年戊戌の年 の七月九日大
 雷震ハアナスタシウス是を恐る正寝より他室に移
 り避けしうも雷霆より震るて遂にアナスタシウ
 スを曳た出づて地上に撃殺アリアド子后も亦死せ
 り是よおろて國人先王レオの孫を迎へて位を嗣
 めしうとつし嗚呼天地の覆載するところ日月の照臨
 するところ孔臣賊子いづくんぞ其終りを令するを
 を得んや

カールゴロート帝邪魔の祠を毀つ説

沙瑣泥亜國昔ハ其地「ウエセル」「エルベ」兩河の間ハ跨りて
 甚大國あり土人すべし邪魔を崇信故其「シニテン」
 「オスナブリユク」「セリング」「スタット」「ハルベル」「スタット」
 等の諸城皆種ニの邪魔を奉じて奇異の形状を設
 け祠窟を立つまゝその「ヘルツ」「ヒュルグ」の城ハ一種の
 邪神ありさきを「コロド」まゝ「バツテ」「トルラル」と名くそ
 の像身ハ人よりして首ハ龜鼈なり手ハ水桶を把て種ニ
 の花を盛る土人みなまめて是を崇め信び其後此諸
 州すべし邏馬の帝の州郡となりてその政令を受る
 よおよんぞ「カール」ゴロート帝ともて諸の邪神の祠

宇を破却し神像を斫り碎きて其諸地は古の諸聖賢の廟を建くるその土人の汚俗を改む凡歐羅巴洲偏僻の地はしるまで政化はゆるしく行はるる民俗すべし善は歸せしハ實は此帝の代よりなりといふ

地志を按よ中興第五百年の比より〜サキソニア勢盛りして其主ヘングストオルストといふ二人の兄弟ありホルステインの地より起り今ノイギリス國もあはれ七の王國を建くる又其地を開く殆入ル馬泥亞の大半は君らりま中興第六百年の比よりサルマジアといふ北方の國

より〜ソルベニ一名ウエンテンといふ國起りて入ル馬泥亞の南東諸州をらびタルマシアシレシア博厄美亞コロアナヤ波羅泥亞等の地は據りて其中又多くの王あり共は強勇を尚び邪魔を信ず然る中興第八百年の頃に至りてカーレルコロオト帝皆是を平げて或教を以て是を化し或是を追討破滅し又サキソニアの主ウイツテキンドスを大に破りて是を滅して諸國悉帝徳に化すといふ

世紀を按よカーレルコロオト帝ハフランクエンランド國

主ピヒスの子よりして、「子ーテル・ハルツ」の内なる
 「インケルヘイム」城より誕生し王位を嗣ぐと三
 十三年よりして西洋中興第八百年日本桓武天皇延暦
十九年唐土唐の徳宗貞元十六年庚辰よりして入る皇統を嗣ぐ。在位十五年
 壽七十。大徳の王なり。まろカーロリユス。マグニ
 スと号れゴロート「マグニユス」共大と云へる義あり

羅馬國銅甲の説

昔羅馬國開基第四十八年唐土周の桓王の十その國王ニ
 ユマ。ホムロリウの世よりして空中より大きたる響あり
 りてその音はさうも人の呼ぶ聲に類しや久しく天

よりして一の銅を以て造りて鎧をその國都羅馬
 城に落す。その音大に地を震ふ。識者よりて甲兵國を定
 むるの兆なりといひ。數年前よりして意太
 里亜の總國大に疫疾流行し。次で兵乱大に起りて諸
 州争戦休まず。是よりして諸敵を敗りて國中
 ますます平治せり。其銅甲ハソより至りて彼國は存す。號
 して「アンシシ」とりふ。

西洋雜記卷壹終

